

CASBEE神戸 ver.3
神戸市総合児童センター

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.8	0.15		-		3.8
1.1 室内騒音レベル		天井材に吸音板を多く使用する。		4.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				4.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		遮音性能をT-2以上とする。		5.0	0.33	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.29	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		乾式二重床を採用し遮音性能を上げている。		4.0	0.19	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		乾式二重床を採用し遮音性能を上げている。		4.0	0.19	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35		-		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		-		
1 室温				3.0	0.59	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.39	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.02		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.4	0.25		-		3.4
3.1 昼光利用				4.6	0.30		-		
1 昼光率		極力間口の広い開口を設ける。		5.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備		共用部にトップライトを設け、昼光利用を行っている。		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.29		-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.26	3.0	-		
4 空気質環境				3.2	0.25		-		3.2
4.1 発生源対策				3.0	0.50		-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙とする。		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.1
1 機能性				3.1	0.40		-		3.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30		-		
1 広さ感・景観				1.0	0.48	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-		-		
3 内装計画				3.0	0.52		-		
1.3 維持管理				4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上・建材、外装面の水切り設置 清掃用流しを設けるなど設備的な配慮も行うほか、粗大ごみ等を十分にストックできる管理倉庫を設ける等、施設の適切な維持管理ができる計画としている。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30		-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管を採用している。		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.0	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		天井高にゆとりのある階高設定としている。	4.0	0.57	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		耐力壁が少なく、自由度の高い計画としている。	4.0	0.43	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		本計画敷地の敷地面積は10,000㎡近くあり奥行があるが、敷地東西を通り抜けることができる歩行者専用路を設けている。この歩行者路は施設利用者以外も使用することができ、地域のアメニティ性が向上するよう配慮している。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		窓ガラスはLow-e複層ガラスとし開口面積も必要最低限として冷暖房負荷の低減につとめるほか、屋根・外壁には断熱材を設けるなどの配慮をしている。	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.88	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材(グリーン調達品目)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ユニット部材(乾式二重床、OAフロア、システム天井)を用い、躯体+軽鉄+仕上材としている。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			2.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		「建物外皮の熱負荷を抑制する取り組み」及び、「ユニット部材を採用し解体時のリサイクルを促進する取り組み」を特に行うことで、地球温暖化への配慮に努めている。	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		・駐車台数は60台確保し、出入口は幅広の車道設けている。 ・駐輪数64台を確保し、敷地内に分散配置している。 ・管理用車両や荷捌き用駐車は南西側にバックヤード搬入路を確保している。 ・周辺道路に車両が並ぶことのないよう、敷地内及び駐車場内に車両の待機スペースを設けている。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			2.8	0.40	-	-	

		1	風害の抑制	「光害対策ガイドライン」チェックリスト16項目のうち、一部の項目を満たしている。	3.0	0.60	-	-	
		2	砂塵の抑制		2.0	0.19	-	-	
		3	日照障害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7		0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		0.70	-	-		
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0		0.30	-	-		